

EU Indicators

欧州経済指標コメント：3月ユーロ圏消費者物価（速報）

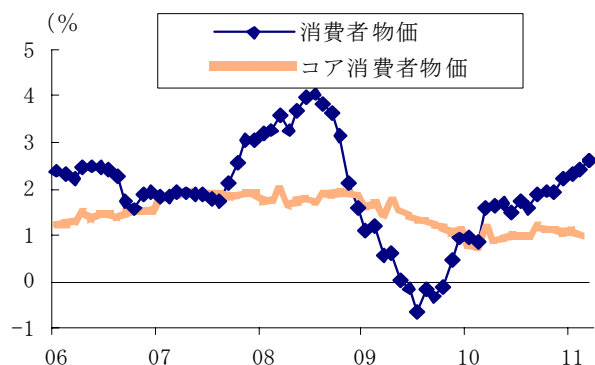
発表日：2011年4月1日（金）

～物価は見た目以上に上振れ、4月の利上げ再開にゴーサイン～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

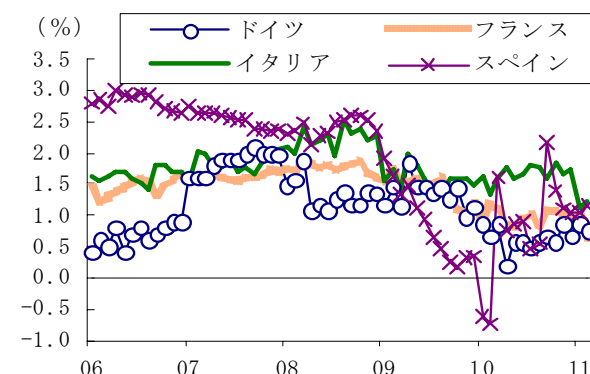
- 3月のユーロ圏の消費者物価（速報値）は前年比+2.6%と前月（同+2.4%）から一段と加速し、4ヶ月連続でECBの物価安定目標（2%をやや下回る）を上回った。29日に発表された同月のドイツの消費者物価が前月と同率にとどまり、ユーロ圏全体の計数も前年同月の裏（昨年2月：同+0.8%→3月：同+1.6%）の影響で低めに出やすかったことに鑑みれば、今回の一段の加速にはやや意外感も。国別・費目別の内訳は4月15日の確報値の結果を待つ必要があるが、エネルギー価格が引き続き全体の計数を押し上げた模様。ドイツ以外の一部の国で物価上昇率が大きく加速した可能性が示唆される。
- 既に4月7日の次回ECB理事会での利上げ再開は規定路線となっているが、その後の追加利上げの有無や利上げのペースを判断するうえでは、エネルギー価格の上昇が他の財・サービス価格に波及する兆しが見られるかどうかは1つのポイントとなる。表面物価の上昇率が一段と加速し、物価安定目標の上振れが長期化する可能性が高まるなか、4月以降も追加利上げが行なわれると予想する。但し、景気の足腰の強さを睨みつつ、慎重な利上げペースにとどまる公算が大きい。
- 景気サイクルが必ずしも一致しないユーロ圏で域内景況格差はつきもの。財政危機の解決や周辺国景気の回復を待っては、いつまでも利上げが出来ないのが現実。規模の小さい国の景気を多少犠牲にしたとしても、物価上振れを放置することによるリスクをECBは重視した。失業率の高止まりを問題視する見方もあるが、2005-07年の前回利上げ局面では、域内シェアが最大のドイツの失業率が10%台で高止まりしていたが、利上げの障害にはならなかった。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏：主要国のコア消費者物価（前年比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2010				2011	2011								
	2Q	3Q	4Q	1Q		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
消費者物価	(前期比)		0.7	0.3	0.5	—	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4	0.2	—
	(前年比)		1.6	1.7	2.0	2.5	1.6	1.9	1.9	1.9	2.2	2.3	2.4	2.6
コア消費者物価	(前期比)		0.9	1.0	1.1	—	1.0	1.2	1.1	1.1	1.0	1.1	1.0	—
	(前年比)		8.1	7.3	9.2	—	6.1	7.7	8.5	7.9	11.0	12.0	13.1	—

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。